

令和4年度使用

義務教育諸学校（中学校）の教科用図書  
（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）  
社会（歴史的分野）  
研究資料

令和3年6月

岡山県教育委員会



「令和4年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

4

教科 社会

種目 社会（歴史的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい社会 歴史	1-3	A B	308
17	教出	中学社会 歴史 未来をひらく	1-3	A B	318
46	帝国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	1-3	A B	310
81	山川	中学歴史 日本と世界	1-3	A B	296
116	日文	中学社会 歴史的分野	1-3	A B	336
225	自由社	新しい歴史教科書	1-3	A B変型	312
227	育鵬社	〔最新〕新しい日本の歴史	1-3	A B	320
229	学び舎	ともに学ぶ人間の歴史	1-3	A 4	308

種目名 ( 社会 (歴史的分野) )

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 歴史
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 小单元ごとの学習課題を明記し、「見方・考え方」「読み取る」などで活動を取り上げ、「チェック」で基本的な内容を確認できるようにになっている。章末の「学習をふり返ろう」でキーワードとなる語句を説明させたり、空欄や年表に記入させたりする課題が設定されている。</p> <p>② 小单元ごとに「トライ」でキーワードを使用して記述する活動や「みんなでチャレンジ」で話し合い活動等が設定されている。章末には「まとめの活動」としてさまざまな思考ツールを活用して学習内容を整理し、時代の特色を記述する活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史にアクセス」で34コーナーを設けて、本文での学習が詳しく説明されたり、関連する学習内容が示されたりしている。また、絵画を視点とした「資料から発見」で4つ、「もつと歴史」で8つの話題を特設ページで紹介するなど発展的な学習内容が掲載されている。</p> <p>④ 第1章で歴史をとらえる見方・考え方や身近な地域の歴史の調べ方が示され、第2章以降の章末に「地域の歴史を調べよう」で探究的な学習の例が示されている。資料に他分野や他教科との関連を示すマークや「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」等が表記されている。現代的な課題への取組としてSDGsについて紹介されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、本文中で「尖閣諸島、竹島、それぞれ内閣の決定により日本領に編入」と記述され、写真資料の下部には「北方領土は一貫して日本の領土」と記されている。2ページにわたり、現在の日本の領土を示す地図とともに、竹島、北方領土、尖閣諸島の歴史的背景を掲載し、日本固有の領土と記されている。また、コラムで国際的に活躍した新渡戸稲造や杉原千敏などの業績が記されている。巻頭2ページには日本の国宝・重要文化財の特集が設定されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に44ページ、近現代に140ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には44ページが割り当てられている。各小单元では初めに学習課題が、また振り返りの課題が終わりに示されている。また、まとめの活動として、時代を大観してまとめる課題が2ページ設けられている。各章ごとに、探究課題への取り組み方法について、段階的に示されている。</p>

種目名 ( 社会 (歴史的分野) )

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 歴史 未来をひらく
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 時代のイメージを持つことができるように章のはじめに「学習を始めよう」が設定されている。また、小單元ごとの学習課題が示され、「確認」で学習活動の焦点化ができるように構成されている。写真や挿絵に対して、思考の視点を示す吹き出しの問いが記されている。</p> <p>② 小單元ごとに「表現」の課題が設定されており、キーワードを用いて説明したり、章末では意見交換をしたりする活動が設定されている。各章末には「学習のまとめと表現」で時代の変化に注目して説明する活動や、新聞や関係図を作成して時代の特色を記述する活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史を探ろう」では、具体的な事例や14テーマの特設ページを設けて発展的な資料が掲載され、歴史学習を掘り下げていく内容が示されている。また、学習内容に関連して「歴史の窓」という学習コラムが設定され、興味や関心をさらに広げる話題が掲載されている。</p> <p>④ 第1章において、歴史のとらえ方・調べ方や身近な地域の調べ方が示されている。また、各章の「身近な地域の歴史を調べよう」で、探究的な学習につながる6テーマが示されるとともに、欄外に他分野との関連も記されている。歴史学習の終わりにSDGsや現代社会の課題が紹介され、調べ学習の例が示されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、「尖閣諸島を沖縄県に、竹島を島根県に、それぞれ閣議決定により編入」と記されており、2ページにわたり「隣国と向き合うために」と題して日本の領土領海を表す地図で北方領土、竹島、尖閣諸島が取り上げられ、日本固有の領土と明記されている。特設ページ「歴史を語ろう」で杉原千畝の業績が掲載されている。また、「平和と共生を願う人々」として核兵器のない平和な世界を実現させようとする動きやオリンピック、パラリンピックの始まりが紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に42ページ、近現代に121ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には54ページが割り当てられている。各章の扉のページで、学習のイメージがつかめるよう、生徒と先生の会話が掲載されている。また、單元ごとに、「学習課題」「節をとらえる」が配置され、章末には「学習のまとめと表現」として、日本と世界の歴史の関連図が、表記されている。</p>

46 帝国 社会科 中学生の歴史	81 山川 中学歴史 日本と世界
<p>① 「タイムトラベル」で、各時代の様子がイラストで示されている。小单元ごとの学習課題を明示し、「確認しよう」で学習課題に迫るための内容を、本文から書き出す活動が設定されている。章末の「学んだ事を確かめよう」で、各時代の主なできごとを時系列に整理する学習場面が設定されている。</p> <p>② 小单元ごとの「説明しよう」で、学習課題に迫る内容について、自分の言葉で説明する活動が設定されている。「技能を磨く」で、資料の扱い方を学習する場面が設定されている。また、さまざまな方法で思考を整理して、時代の特色を説明する活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史プラス」「人物コラム」として本文に関連したできごとや人物等について詳しく紹介するコーナーが設定されている。また、異なる意見や立場から考察するために「多面的・多角的に考えてみよう」の特設ページが3つ設定されている。</p> <p>④ 第1部で「歴史のとらえ方と調べ方」が示されている。本文の学習を深めるために欄外に他分野との関連が語句で示されている。「歴史を探ろう」では、12テーマが設定され、探究的な学習につながる資料が掲載されている。43テーマのコラム「未来に向けて」のうち、SDGsに関連するものにはマークで付されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、本文中に「竹島も現在の島根県に編入」、「尖閣諸島も沖縄県に編入」と記述されており、「歴史を探ろう」で2ページをあて「日本の領土確定と近隣諸国」として尖閣諸島や竹島が日本固有の領土であることを示す古地図や当時の生活の写真や歴史的経緯が掲載され、竹島は領有権を確立、尖閣諸島は日本固有の領土と記述されている。巻頭2ページをあて、日本各地の伝統行事と祭りが特集され、平和をテーマとするコラムが8か所に掲載されている。</p>	<p>① 小单元ごとの「学習課題」が明記されている。キーワードとなる語句の用語解説が欄外に表記されている。また、写真や挿絵に吹き出しの問いがあり、資料を読み解くヒントを与えながら、学習活動を行うことができるように構成されている。</p> <p>② 小单元の最後に「ステップアップ」が設定され、学習内容に関連して考えたりまとめたりする場面が示されている。各章末には「まとめ」が設定され、各節に学習内容を表で整理したり考えや理由を説明したり、記述したりする活動が示されている。</p> <p>③ 「コラム」や「人物」のコーナーが設定され、本文と関連した事象や人物についてより詳しく記述されている。発展的な学習として、「歴史へのアプローチ」では10テーマ特設ページを設け、テーマをしぼって多面的・多角的に考えることができるように資料が掲載されている。</p> <p>④ 第1章で年代の表し方や身近な地域の調べ方について示すとともに、図書館や博物館を利用した調査について記述されている。「地域からのアプローチ」で7地域を具体例として、地域を通じた学習が示されている。「歴史を考えよう」では7テーマを取り上げ、探究的な学習につながる資料が掲載されている。</p> <p>⑤ 領土問題については本文で尖閣諸島も沖縄県に編入したと記述されており、特設ページ「歴史へのアプローチ」では「日本の領土の変遷」が掲載され、北方領土が日本固有の領土であることや竹島、尖閣諸島が閣議決定によって日本に編入されたことの歴史的経緯が地図とともに2ページにわたって記述されている。また、国際貢献と平和外交について、国際連合難民高等弁務官として活躍した緒方貞子が紹介されている。</p>
<p>① 古代に44ページ、近現代に138ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には32ページが割り当てられている。章のはじめに「タイムトラベル」で時代を大観し、各小单元の学習課題を基に考えさせ、授業後に基礎・基本の確認と内容を説明させる活動を行うことができるよう配列されている。また、章末には2ページで学習の振り返りとその時代の特色を説明する活動が設定されている。</p>	<p>① 古代に48ページ、近現代に130ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には52ページが割り当てられている。各章のはじめに、図版とともに日本史、世界史を並行させた略年表が、「〇世紀の世界」では世界史的な歴史地図がイラストとともに見開きで掲載されている。各章末の「まとめ」はワークシートになっており、生徒が記述するように構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	116 日 文 中 学 社 会 歴 史 的 分 野
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 小单元ごとに「見方・考え方」として、比較・つながり・推移が示されている。また、「深めよう」で基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、理解を深める活動が設定されている。学習の見通しを立てることができる導入や各単元の最後にまとめが設定されている。</p> <p>② 小单元ごとに「確認」で、課題に対して説明する活動が示されている。各編末の「学習の整理と確認」で地図や年表をもとに説明したり、「アクティビティ」で文字や法、政策など6つのテーマについて学習内容をまとめ、時代の特色を記述したりする活動などが設定されている。</p> <p>③ 本文の補足的な学習内容として「歴史+α」、時代の中の女性についてのコラム、7テーマの特設ページ「歴史を掘り下げる」が設定されている。発展的な学習内容として、多面的・多角的に考えることができるように、5テーマで構成される「チャレンジ歴史」が設定されている。</p> <p>④ 第1編で調べ方や年代等の区分の表し方が示されている。『歴史との対話』を未来に活かす』では、歴史学習のまとめとして現代の課題について歴史を踏まえて考える学習が設定されている。該当の単元に他分野等との関連が示されている。探究的な学習につながる「でかけよう地域調べ」が各編に設定されている。SDGsのモデル都市として北九州市が紹介されている。</p> <p>⑤ 領土問題では、尖閣諸島を沖縄県に、竹島を島根県に編入することを閣議決定し、日本領としたと記されている。特設ページ「歴史を掘り下げる」では「冷戦終結後の近隣諸国との関係」が掲載され、2頁にわたり地図や写真とともに歴史的経緯と現状や日本固有の領土であることが記述されている。また、コラム「先人に学ぶ」では、岡倉天心や新渡戸稲造、杉原千畝らが、「課題例」では「世界平和の取り組みに学ぶ」が示され、伝統・文化や国際平和のテーマについて記述されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に50ページ、近現代に140ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には31ページが割り当てられている。各編の初めに見開き2ページにわたる図版を使った学習課題と同じく世界史的な地図と年表を掲載した「地図で見る世界の動き」が配置されている。また、各編末には「学習の整理と活用」が設けられ、その時代の特色について言語活動を用いてまとめる課題が2ページで設けられている。</p>



225 自由社 新しい歴史教科書	227 育鵬社 最新 新しい日本の歴史
<p>① 小単元ごとの学習課題が示されるとともに、「チャレンジ」で学習活動のまとめを行うことができるように構成されている。用語解説が欄外の「歴史の言葉」などで記されている。章末の「復習問題のページ」で基礎基本の定着を図る課題が設定されている。</p> <p>② 章末の「時代の特徴を考えるページ」で既習事項を基に、時代比較や人物比較などの問題から自分の考えをまとめるとともに、章のまとめとして時代の特徴を作文で表現する活動が設定されている。「対話とまとめ図のページ」で対話形式により学習を振り返る活動が示されている。</p> <p>③ 20 テーマの「もっと知りたい」、10 テーマの「人物クローズアップ」、6 テーマの「外の目から見た日本」では、本文での学習が詳しく紹介されたり、関連する学習内容が示されたりして、発展的な学習につながる資料が掲載されている。補充的な学習内容として「知っ得ポイント！」が示されている。</p> <p>④ 序章では、歴史のとらえ方や年代の表し方が示されるとともに、「地域の歴史を調べる」において、身近な地域の歴史の調べ方やまとめ方が示され、探究的な学習につながる学習活動が紹介されている。また、各章末の「調べ学習のページ」では、修学旅行に向けた調べ学習の例や、資料館や博物館等を活用した調べ学習の例が示されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、日本が一度も北方領土の領有を放棄したことがない固有の領土であることや歴史的経緯が記述されている。また、尖閣諸島は日本固有の領土であり、領土問題は存在しないことや、竹島は韓国が不法占拠していることが本文中に記述されている。巻頭には地図や写真を掲載した「日本の世界文化遺産」が設定されている。また、コラムで国際的に活躍した新渡戸稲造や杉原千畝らの業績が紹介されている。</p>	<p>① 時代の流れを視覚的に表すために各章の扉に歴史のモノサシが示されている。「鳥の目で見ると」で、時代の主なできごとなどを大観するとともに、「虫の目で見ると」で、資料を細部まで読み取る学習が設定されている。基礎基本の定着を図るため、各章末に「学習のまとめ」が設定されている。</p> <p>② 章末の「私の歴史博物館」でデザインしてみようで、各時代の特色をとらえる学習活動が設定されている。また「学習のまとめ」で時代の特色を記述する活動を設定するとともに「歴史のターニングポイント」の特設ページで時代ごとの題材を設定し、クラスで議論する活動が設定されている。</p> <p>③ 16 項目の「歴史ズームイン」や6 項目の「このころ世界は」、15 人の女性を「なでしこ日本史」として紹介するなど、発展的な学習につながる資料が掲載されている。また、補充的な学習として「歴史ビュー」で16 のできごと、「人物クローズアップ」で15 人が紹介されている。</p> <p>④ 「地域の歴史を調べてみよう」では、探究的な学習につながるページが設定され、「歴史ワクワク調査隊6 つの心得」として、調べ方や調査の具体例が示されている。また、巻末の「歴史学習のまとめ」で、歴史新聞の作成や日本の歴史を大観する「日本の歴史10 大事件」「日本の歴史で重要な役割を果たした人物ベスト10」をまとめる活動が設定されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、本文中に「東シナ海の尖閣諸島を沖縄県に、日本海の竹島を島根県にそれぞれ組み入れた」と記述され、「歴史ズームイン」では、2 ページにわたって、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土と記載され、北方領土及び竹島は不法占拠と記述されている。巻末2 ページに「世界と日本の世界文化遺産」の特集が掲載されている。また、コラムで新渡戸稲造や杉原千畝らの業績が紹介されている。</p>
<p>① 古代に50 ページ、近現代に140 ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史の内容には20 ページが割り当てられている。各章のはじめに、図版とともに、年表により小学校で学んだ人物を中心に紹介する「登場人物紹介コーナー」が配置されている。章末には、時代を大づかみにとらえる「時代の特徴を考えるページ」や「対話とまとめ図のページ」などが配置されている。</p>	<p>① 古代に49 ページ、近現代に135 ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史の内容には26 ページが割り当てられている。章のはじめに「海洋国家日本の歩み」として時代を象徴する海上交通が取り上げられ、「鳥の目で見ると」で時代を大観させ、「虫の目で見ると」で具体的な時代の様子が示されている。章末には「学習のまとめ」とともに時代の女性を取り上げた「なでしこ日本史」が配置されている。</p>

種目名 ( 社会 (歴史的分野) )

項目	観 点 の 具 体	229 学び舎 とともに学ぶ 人間の歴史 歴史的分野
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 小單元ごとに、複数の文で記された学習課題が示されている。また、各章末「ふりかえる」で、主に政治が行われていた場所や貿易が行われた都市などを地図中で確認したり、それぞれの事象を時系列で整理して関連付けたりする学習活動が設定されている。</p> <p>② 各部末に「学習のまとめ」が設定され、地図や表を使って説明したり、自分の考えをノートにまとめたりする活動や、ゲーム形式でグループ活動をしたり、クラスやグループで発表したりする活動を通して、時代の特色を記述する学習が設定されている。</p> <p>③ 補充的な学習として「フォーカス」では、単元の学習内容の出来事や人物の内容に焦点を当て、37 テーマで説明されている。地域の歴史についてインタビューして調べたり、火おこし体験をしたりするなど自発的に学習が進められる7つの特設ページ「歴史を体験する」が設けられている。</p> <p>④ 「歴史への案内」で調べ方やまとめ方、年代や時代の区分について説明されている。また、「地域の博物館で調べる」では、探究的な学習につながる内容として、フィールドワーク、インタビュー、博物館を利用した学習などが示されている。現代的で国際的な課題への取組として SDGs について記述されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、欄外において尖閣諸島・竹島が日本の領土として編入することを閣議で決定したと記述され、北方領土については、「日本固有の領土であり、その帰属の問題を解決してロシアと平和条約を結ぶことを方針として交渉している」と記述されている。また、「戦争と二人の少女」として、アンネ＝フランクを取り上げたり、「今、世界の子供たちは」として、社会の課題に取り組む子供を取り上げたりするなど、国際社会の平和について記述されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に 44 ページ、近現代に 146 ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には 38 ページが割り当てられている。各章の初めに、宗教や交通手段など、テーマを決めて、世界の様子が世界地図、図版とともに見開きでまとめられ、章の学習課題が示されている。また、各章末には「ふりかえる」が、各部の終わりには「まとめ」が設定されている。</p>

